

2022年8月16日

2022年度新入生意識調査の結果概要

教育研究所

2022年度新入生意識調査のポイント

- ① 2022年度新入生意識調査はオンライン（manaba）で実施した。有効回答数は2,667、有効回収率96.2%であった。
- ② 新入生の出身地は宮城県が6割を占めるが、その割合は緩やかに減少している。
- ③ 出身高校種別では、進学校の割合が減少している。
- ④ オープンキャンパス参加率は昨年引き続き大幅に低下した。
- ⑤ 受験を決める際の情報源として大学ホームページの重要性が高まっている。
- ⑥ 本学を第一志望とした学生は66%であったのに対し、入学満足度は95%となった。

1. 2022年度新入生意識調査について

本学では、新入生の意識を把握することにより、新入生への教育・指導および入学者募集のための基礎資料とすることを目的として、新入生意識調査を毎年実施している。2019年度までの新入生意識調査は、4月初旬の新入生オリエンテーションにおいて全新入生に調査票（マークシート式）を配布し、その場で回答および調査票回収を行う集合自記式で行われてきた。

2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のため新入生オリエンテーションがすべてオンライン形式となり、新入生意識調査もmanabaのアンケート機能を利用しての実施となった。2021年度の新入生オリエンテーションは対面形式での実施となったが、従来のオリエンテーションよりも時間が短縮されたため、新入生意識調査はmanaba上での実施となった。2022年度調査も、2021年度調査と同様の方法で実施された。

2022年度調査は、以下のような流れで行われた。(1)各学科のmanaba用アンケートファイルを教育研究所が作成し、各学科の新入生オリエンテーション用manabaサイトにアンケートを設定した。(2)教育研究所長から学生部に新入生オリエンテーション期間中のアンケートの実施を依頼した。(3)対面式で実施した新入生オリエンテーションにおいて、グループリーダーから新入生に回答を呼びかけた。実施期間は4月4日から4月9日の予定だったが、提出状況をふまえ実施期間を4月14日まで延長した。(4)実施期間終了後、教

育研究所が回答データファイルを manaba からダウンロードした。

各学科の回収率は表 1 の通りである。昨年度に引き続き、高い回収率を達成することができた¹。

表 1 2022 年度新入生意識調査回収状況

	回答者数	新入生数	回収率(%)		回答者数	新入生数	回収率(%)
英 文	173	183	94.5%	人間科学	116	116	100.0%
総合人文	52	53	98.1%	言語文化	109	112	97.3%
歴 史	174	177	98.3%	情報科学	114	114	100.0%
教 育	51	51	100.0%	地域構想	106	116	91.4%
経 済	445	453	98.2%	機械知能	117	122	95.9%
共生社会	192	200	96.0%	電気電子	115	117	98.3%
経 営	336	355	94.6%	環境建設	105	113	92.9%
法 律	352	378	93.1%	情報基盤	110	111	99.1%
				全 体	2,667	2,771	96.2%

¹ 2021 年度調査の回収率は 97.0%。

2. 主な調査結果

新入生意識調査の質問事項は多岐にわたる。このため、本報告書ではそれらの子細に説明することはせず、前年度以前と比較して特徴的であると思われる事項、広報や学生指導に関して重要であると考えられる事項を選んで報告する。具体的には、(1) 出身高校所在地、(2) 出身高校種別、(3) オープンキャンパスへの参加率、(4) 受験を決める際の情報源、(5) 東北学院大学の志望順位、(6) 入学満足度、の6点を取りあげる。調査結果の詳細については、全学および各学科の単純集計表を参照のこと。

2.1 出身高校所在地

図1は新入生の出身高校所在地をまとめたものである。宮城県が60%以上を占めることはここ10年変わっていないが、その割合は緩やかに減少傾向にある。反対に、宮城県以外の出身地の学生は微増している。

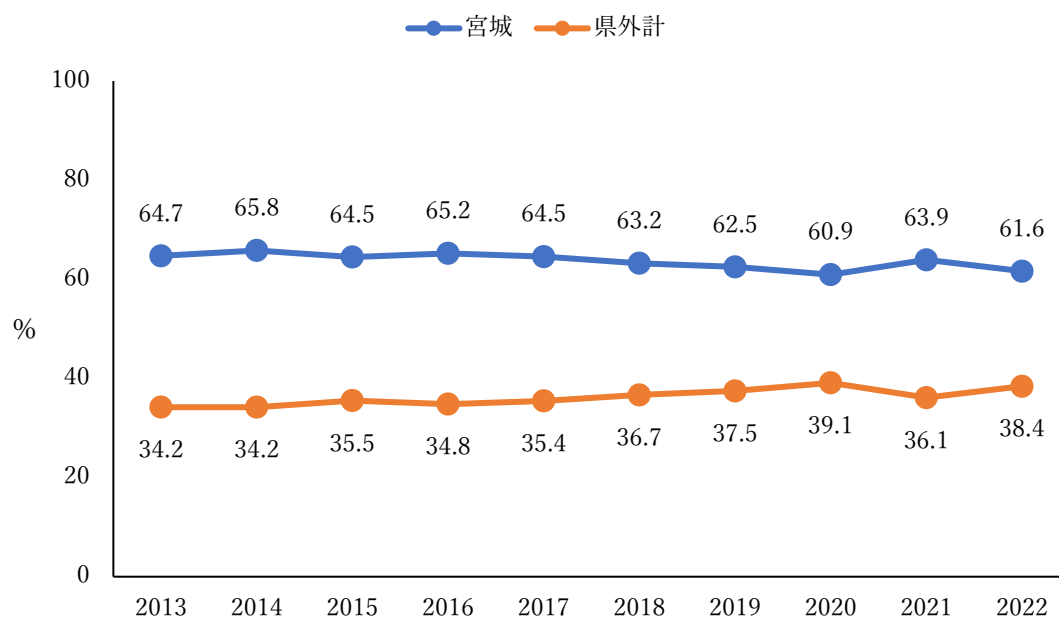


図1 出身高校所在地の変化 (2013-2022 年度)

図2は、宮城県外の出身高校所在地の内訳をまとめたものである。東北地方では、宮城県と隣接する3県(岩手・福島・山形)が多い。青森・秋田およびそれ以外の地域については特に目立った変化はない。

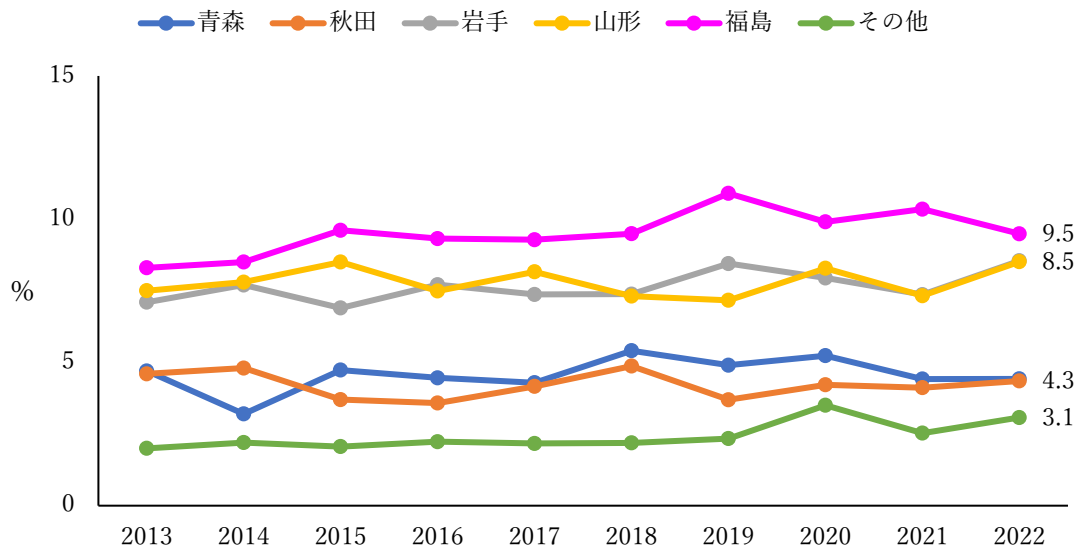


図2 宮城県以外の出身高校所在地の内訳（2013-2022年度）

2.2 出身高校種別

新入生意識調査では、以下の質問で出身高校の種別（教育レベル）を把握している。

あなたが卒業した高校は次のうちどれに該当しますか。

- 1 進学校だった（4年制大学志望者がほとんど）
- 2 どちらかといえば進学校だった（4年制大学志望者が半分以上）
- 3 どちらかといえば、進学校ではなかった（4年制大学志望者が半分以下）
- 4 進学校ではなかった（4年制大学志望者はほとんどいない）
- 5 非該当（高卒認定試験合格者）

以下では、1を「進学校」、2を「準進学校」、3を「準非進学校」、4を「非進学校」と呼ぶことにする。ここ10年の出身高校種別の変化をまとめたものが図3である。

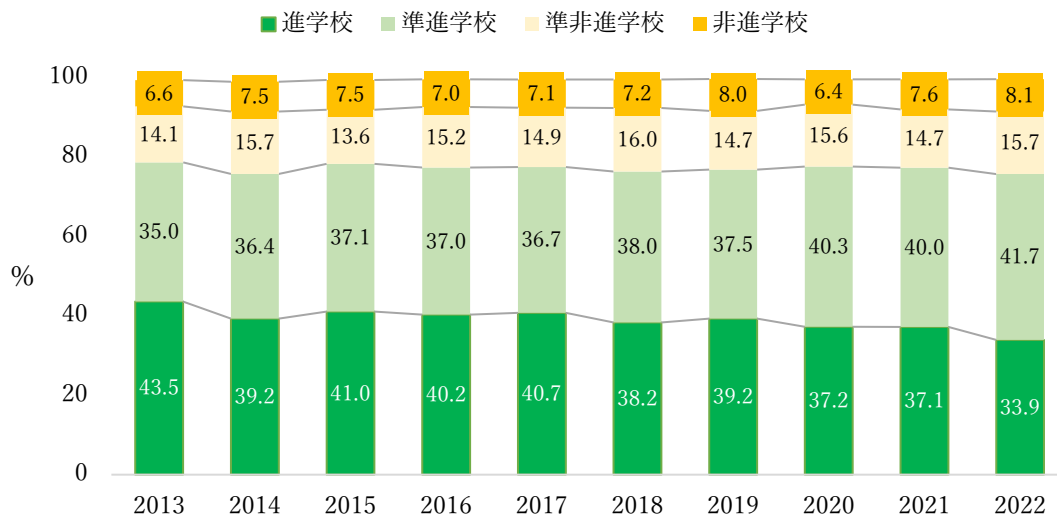


図3 出身高校種別の変化（2013-2022年度）

この10年で、進学校の割合が約10ポイント減少し、それ以外の高校、特に準進学校の割合が増加している。準非進学校と非進学校も増加しているが、準進学校ほど大きな増加ではない。こうした変化は、本学の教育内容を検討する上で重要と考えられる。

2.3 オープンキャンパス参加率

過去10年の新入生のオープンキャンパス参加率をまとめたのが図4である。2021年度新入生の参加率は新型コロナウイルス問題の影響で大きく減少したが、2022年度も引き続き参加率が低下した。2021年の夏は新型コロナウイルス流行の第5波であったことを考えれば、やむを得ない結果といえよう。

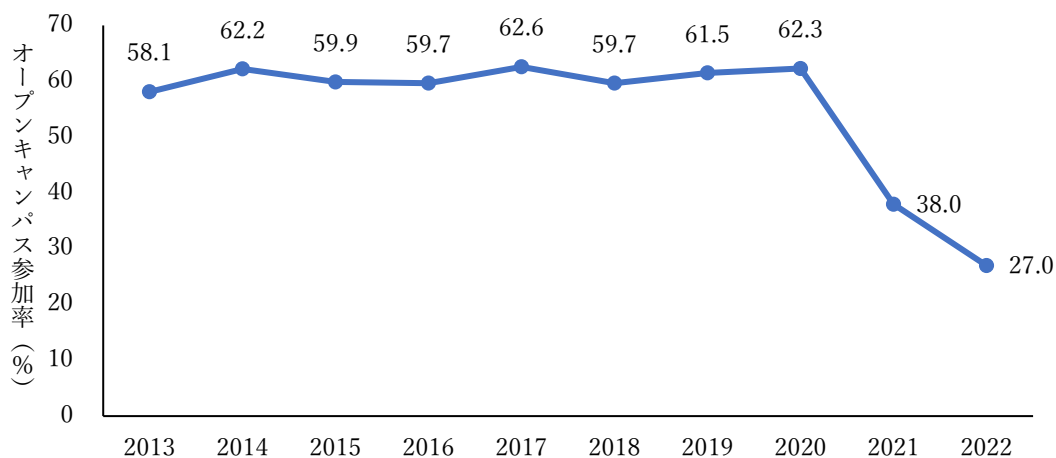


図4 新入生のオープンキャンパス参加率（2013-2022年度）

2.4 受験を決めた時の情報源

オープンキャンパス参加率が減少したのであれば、受験生は何を手がかりとして本学の受験を決めたのだろうか。図5は、受験を決めた時の情報源に関する回答をまとめたものである。新入生意識調査では、受験を決めた際の情報源として8項目をたずねているが(複数回答)、ここでは「その他」以外の7項目の直近4年間の変化を示す²。

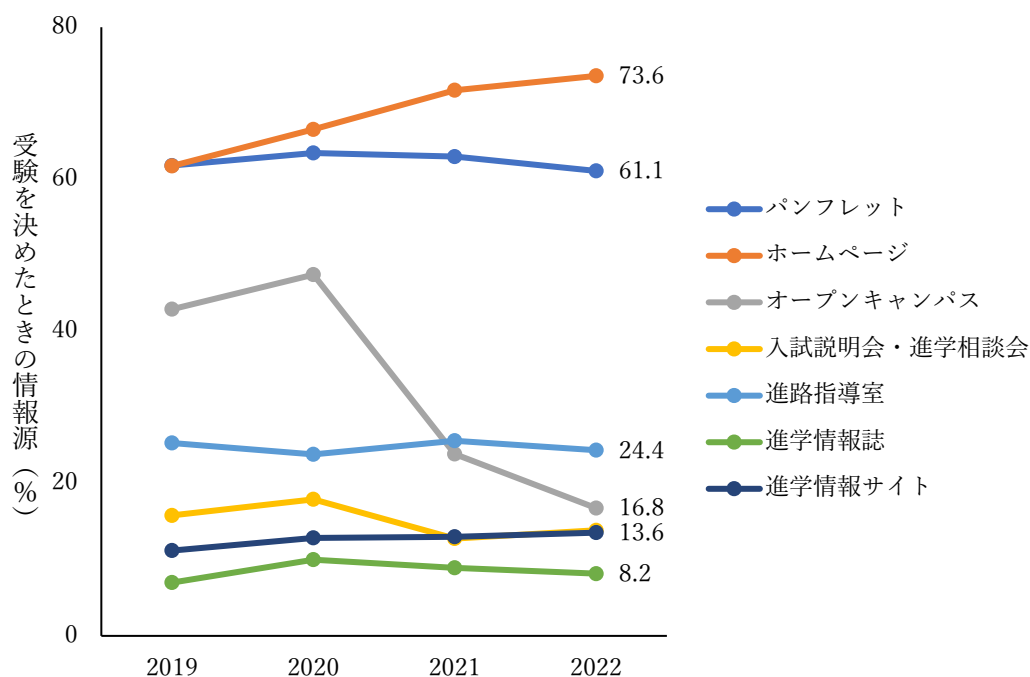


図5 受験を決めた際の情報源 (2018-2022年度)

2021年度以降、オープンキャンパスの割合が大きく減少し、ホームページの割合が増加した。ホームページの充実が広報上重要なことは改めて指摘するまでもないが、コロナ禍においてその重要性はさらに高まっている。

また、オープンキャンパスの割合が低下した結果として、進路指導室が情報源の第3位に浮上している。もし今後もオープンキャンパス参加率の改善が見込めないのであれば、高校への働きかけの強化を検討すべきかもしれない。

2.5 東北学院大学の志望順位

新入生が本学を第一志望としていたか否かは、いわゆる不本意入学の問題を考える上で重要である。図6は、本学を第一志望とした学生の割合(全学平均)の変化を示したもので

² 2019年度に選択肢が改定されたため、2018年度以前と直接的な比較はできない。

ある。

入学学科が第一志望だった学生の割合は、ここ 10 年間 50%台で推移しており大きな変化はなかった。本学の所属学科以外の学科が第一志望だった学生は 5%前後で推移しており、こちらも大きな変化はない。これらをあわせて、2022 年度新入生の約 66%が本学を第一志望としていた。これは、ここ 10 年で最も高い数値である。

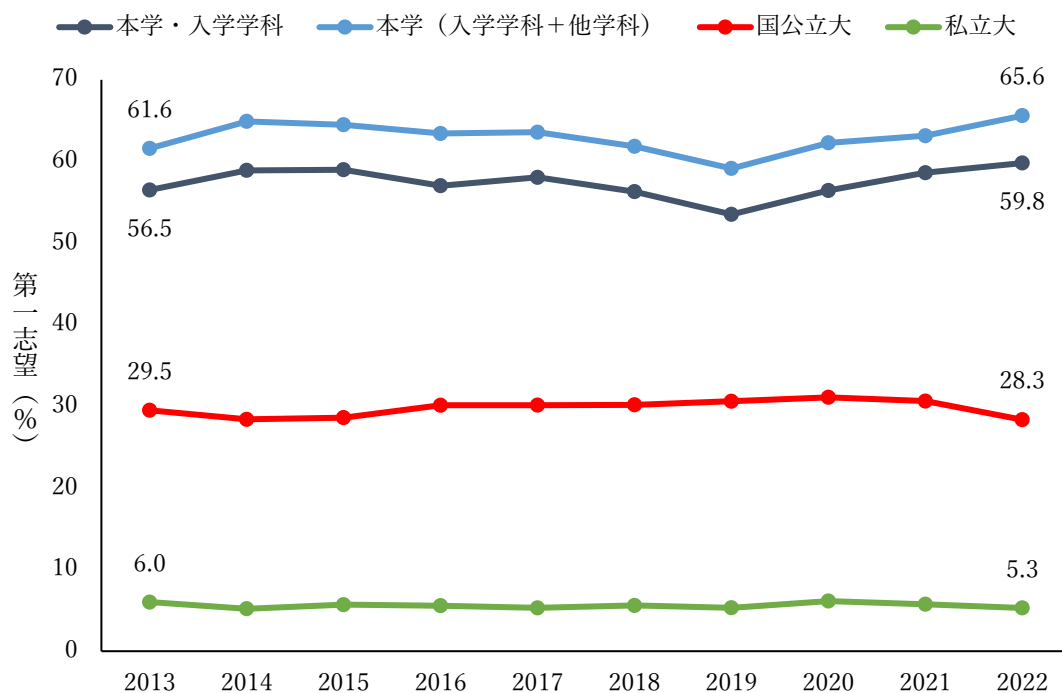
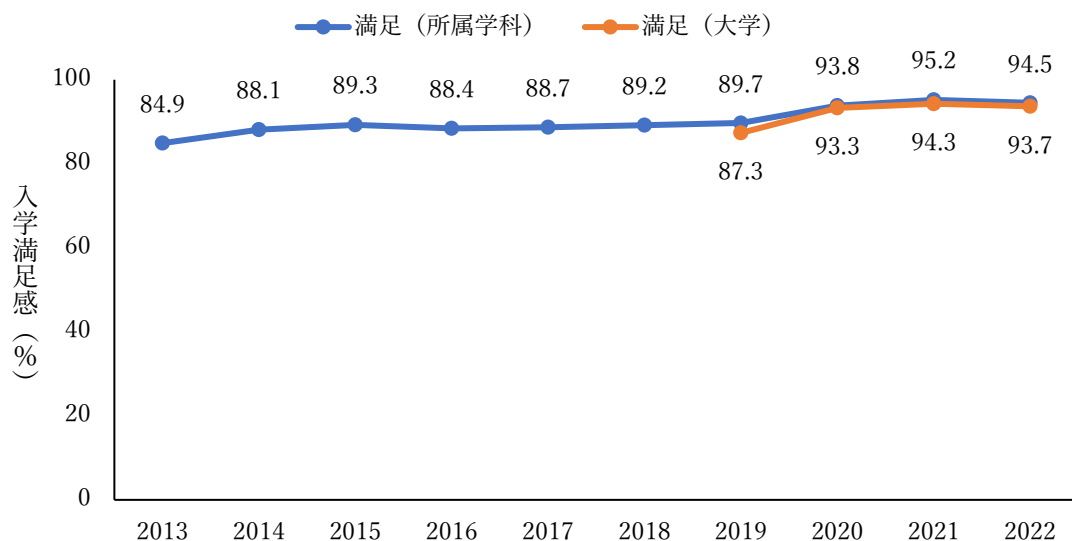


図 6 第一志望校の変化 (2013-2022 年度)

2.6 入学満足度

本学が第一志望でなかったとしても、本学に入学したことに満足しているのであれば大学生活の不適応は起こりにくくなるはずである。図 7 は、所属学科に入学したことに満足していると回答した学生の全学平均をまとめたものである(「たいへん満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計比率)。2019 年度以降は、所属学科とは別に「本学に入学したこと」の満足度も質問しているので、その結果も併せて表示した。



注：入学満足度は「たいへん満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計比率

図8 所属学科および大学の入学満足度（2013-2022年度）

入学満足度はこれまで90%をわずかに下回る水準で推移してきたが、2020年度に90%を越えた。2022年度新入生の入学満足度は前年度よりわずかに低くなったが、所属学科で94.5%、大学で93.7%と高い水準を維持している。

3. まとめ

以上の分析結果をまとめると、次のようになる。

- (1) 2022年度新入生意識調査はオンライン(manaba)で実施した。有効回答数は2,667、有効回収率96.2%であった。
- (2) 新入生の出身地は宮城県が6割を占めるが、その割合は緩やかに減少している。
- (3) 出身高校種別では、進学校の割合が減少している。
- (4) オープンキャンパス参加率は昨年引き続き大幅に低下した。
- (5) 受験を決める際の情報源として大学ホームページの重要性が高まっている。
- (6) 本学を第一志望とした学生は66%であったのに対し、入学満足度は95%となった。

2022年度新入生は、これまでの新入生同様、高い希望と満足をもって本学に入学していると言える。一方で、2021年度卒業時意識調査では大学に対する評価が全般的に低下した。コロナ下での教育には多くの困難が伴うが、学生を失望させることのないよう教育の充実に努めなければならない。

以上